

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4373101015 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 洋香会 | | |
| 事業所名 | にしき園グループホーム(さくら棟) | | |
| 所在地 | 熊本県球磨郡錦町大字西70番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年8月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年10月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年9月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地を構え、周りには果樹園・牛舎・住宅等何らかの形で地域の方に見守られています。フェンスに沿って防草シートを張り散歩道を作ってみました。一日の中で涼しい時間を選び職員と世間話をしながら散歩されています。途中当園内の畑に育った野菜を収穫されたり、花を眺めたり穏やかな時間を過ごされています。また前述した通り、自然と地域・住民に囲まれながら、大変恵まれた環境の中で事業運営ができています。当グループホームの運営理念である「自然を愛し・地域を愛し・人を愛す」ことにもびつたりな環境が整っています。運営理念の下、当園内に自作の畑があり季節の野菜を育て収穫し自然に関わりを持った活動や、地域のサークル活動・近隣高生のインターンシップの受け入れ、また茶話会(名称:虹いろカフェ)を毎月第4金曜日に開いて近隣住民の人たちを招き、利用者様との交流なども行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居の山々、田畑、名産の果樹園など豊かな自然と、近隣・地域の人々からの恩恵を受けながら、入居者は職員の温かな支援によって穏やかさと活気ある日常を過ごしている。「土を活かしたケア」を大切にしているホームでは、開所時に広大な敷地の手入れを行い、果実や山菜の収穫、野菜においては種まき・苗植え、水やり、草取りなどの作業、収穫後は食材や保存食としての活用に入居者の力が存分に発揮されている。職員の「〇〇さんの地元の栗ですよ!」の一言に、止まっていた箸が進み始めた入居者、「ここはよかとこだけん、長生きせんば!」「そぎゃんたい!」と聞こえる会話に、訪問者も嬉しさを覚えてしまう。「家族の負担は軽く、しかしサービスの質は最高の物を」、法人代表者をはじめ、管理者を中心に一人ひとりの職員が自分の役割や持ち味を惜しまず発揮したホームの今後に大きな声援を送りたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 私たちは、地域とともに歩み「自然を愛し・地域を愛し・人を愛す」を理念として福祉サービスの提供にまい進します、という事業所理念を管理者・職員がともに共有し、意識づけしながら実践しています。 | ホームの理念である「地域とともに・・・」は、運営者や職員の一方的な思いにとどまらず、入居者や家族にしっかりと定着し、地域へ向けてその姿勢を発信している。緑豊かな敷地は入居者の暮らしに欠かせないものとなり、外に出たら座り込んで自然に草むしりをされる様子がここでの日常を物語っている。その中に地域の人々をいつでも招き入れ、共に過ごす時間を大切に育てている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 「運営推進会議」を始め、茶話会(名称:虹いろカフェ)や地域のサークル活動、近隣高校生のインターンシップを受け入れたり、夏まつり等の行事に近隣保育園生など地域の人たちを招き交流を図っています。 | 開所以来ホームの取り組みは地域へ啓発され、「一人でも多くの人に敷地に入ってもらいたい」とか語る管理者の言葉にあるように、工夫を凝らしながら運営を展開している。地元保育園児の来所時には、水槽に金魚やポール釣りを準備し、園児や入居者が楽しめる空間を作り、併設された地域交流センターを活用し、「虹いろカフェ」を開催している。地域の祭り(ふるさと祭り)、商店や神社への外出、法人の夏祭りへの参加など入居者が地域へ出る機会が数多く用意されている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 「運営推進会議」に、利用者様とご家族様を含め、地区委員・民生委員、町の消防団長、町役場の健康保険課長、包括支援センターの職員の方々に出席してもらい、利用者様の生活状況とその理解や支援方法等について発信しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議については、出席していただいている方より、「昼と夜で色々工夫したサービスをされていて大変さがよくわかります。いつもありがとうございます。」といったお言葉を頂いておりサービス向上に活かされていると思います。 | 隣接する交流センターで開催される運営推進会議は、行政や包括、地元から民生委員や消防団の出席の他、家族や入居者の代表が同席している。直近の会議では福祉体験中の高校生も加わり、入居者と職員の心温まる生活の様子を語っている。介護保険制度の変更に伴う説明などの他、身体拘束や看取り等について資料をもとにホームの考えや取り組みを紹介して意見を求めている。 | 地域代表者との意見交換のせつかくの機会ととらえ、近隣住民へも参加の呼びかけを行っている最中であり、実現が期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町役場より、毎月介護相談員が訪問され、直接利用者様と話をしてもらったり、それぞれのケアサービスについて積極的に相談に乗ってもらうなど、協力関係を築いています。 | 運営推進会議には毎回行政や包括の担当者が参加しており、様々な情報や提案、助言がもたらされ、友好的関係を継続している。また、月に一度来所される介護相談員との連携により、入居者の意見や要望を支援に反映させるよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | リスクマネジメント委員会による勉強会を開催し、「禁止の対象となる具体的な行為」について職員全員が正しく理解しました。グループホームにありがちな「スピーチロック」についても、管理者より厳重な注意があり、認識を改め取り組んでいます。 | 身体拘束については毎月勉強会を行っており、日頃何気なく使っている言葉にも気になる点があったり、細かいところへの配慮に気づかされるなど、職員の質の向上に大いに生かされている。また、それらは行政の指導の下運営推進会議でも紹介しており、参加者と共に身体拘束や虐待について意見を交わす機会を持っている。ホーム内は入居者同士の語らいや笑声に包まれ、生き生きとした表情を見る事ができた。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 当グループホームではプライバシー保護のため監視カメラは設置しておらず、厳密な検証は出来ませんが、入浴介助時や着脱介助時などに利用者様の身体に、打撲痕や血腫、傷があった場合は、介護士から管理者へ必ず報告し原因を追究しています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を活用している利用者様が現在お一人おられますが、管理者や一部職員のみしか知らず、日常生活自立支援事業のことも含め、その内容や制度について学び、必要と考えられる利用者様がそれらを活用できるように支援していきます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結や解約の際は、原則管理者とケアプラン担当者が利用者様や家族様に要望等を伺いながら、解り易く時間をかけて十分な説明を行い理解・納得を得ています。また料金改定等には、その都度説明の上、同意書などを受け入れています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の都度面会時やサービス担当者会議、外部調査機構によるサービス内容確認アンケート実施などの機会を設け、ご家族の意見・要望をお聞きしながら、それらにお応えできるような運営に努めています。 | 入居者がいつでも気軽に立ち寄れるよう事務所もオープンにしており、雨の日や午後からのホーム内散歩のコースになっている。心配事の相談に来られる入居者に、安心して過ごしてもらう様言葉をかけたり、意見や要望を引き出すよう努力している。 | 入居者に必要な物品購入のための預かり金については、台帳の開示により家族へ報告しているが、遠方や来所が遠くの家族にもはっきりとわかる形で報告されることが望ましいと思われる。また、内容を検討したうえで家族へのアンケートを実施することも良いと考える。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月管理者を含めた職員会議を開催し、また、毎朝・毎夕のミーティング時にその都度、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、職員の声に耳を傾け、出来得る限り運営に反映させています。 | 毎月の職員会議や毎朝・夕のミーティングを中心に職員の意見や提案を聞き取っている。ミーティングは職員の参加しやすい勤務体制に配慮した時間に開催している。管理者は会議を含め、共に業務にあたりながら、要望に限らず体調面にも気を配り働きやすい職場環境に努めている。また、法人代表者も運営推進会議をはじめ、努めてホームを訪れ、出された意見要望と現状を見極めサービスの向上に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 半期毎の人事考課に於いて、職員各自の自己実現項目について公平に評価・助言し、次期目標に繋がりが持てるようにしています。日頃より、職員の声に耳を傾け、意見交換が出来るような職場環境づくりに努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各自の知識・経験・スキルの度合いに応じた事業所内外の研修参加を促すとともに、各種資格取得も奨励し、学びの機会を事業所として計画的に確保できるよう努めています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会にて同業者との交流の場を持ち、定期的な研修や勉強会を開催しながら意見交換を行い、お互いのサービスの質の向上に努めています。また敷地内の交流センターを会議等の場として提供するなどの取り組みをしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する初期の段階で、本人・家族様から十分な聞き取りを行いアセスメントを実施しています。それを基にしっかりしたケアプランを作成し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約締結時に家族様の要望を出来るだけ受け止め、相談しながら安心して頂けるようなサービスを提供しています。面会時やサービス担当者会議等においても、家族様の要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時の本人様の実情や身体機能状態等をもとに、その時点で何が必要かを管理者・ケアプラン担当者が見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 今まで生きて来られた背景を大切に、例えば野菜づくり・収穫・下ごしらえ、また盛りつけなど、職員と同じ作業を共に行うなど、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 10、「運営に関する家族等意見の反映」で記述しましたように、利用者のご家族様とは対等な関係が築けていると思います。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 季節毎に神社へ参拝を兼ねた花見や紅葉狩りなど、地域の馴染みのある場所へのバスハイク、家族様との夕食や冠婚葬祭時の外出、地域の人々の面会時の交流等、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めています。 | 入居者にとって馴染みの場所(地域の神社や航空隊ミュージアムなど)へのバスハイクや季節の花見は昔を思い出し、大変喜ばれている。広い敷地では常に入居者が出番を發揮できるようにしており、ホームが取り組む「土のケア」は、昔取った杵柄の發揮や、食への楽しみを広げている。方言を用いた職員の語り掛けも入居者にとっては、耳慣れた安心できるものになっている。 | タオルを首にかけ過ぎられる方、お気に入りの髪型など、一人ひとりのこだわりへも支援されており、継続した取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事は利用者様が気分よく楽しくできるように、その時々に応じた食卓のレイアウトや座っていたく場所を変更するなどアイデアを出し合っています。またレクレ活動など、利用者様全員が関わり合いが持てるように役割を分担するなど工夫しています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後の入院や他施設への入所時は、必要な情報提供を行い、その後の相談や支援に応じる姿勢を示しながら、家族様からの相談等に応じています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様一人ひとりに介護士1名を担当者に任命し、主としてその担当者がそれぞれの利用者様の希望や意向の把握に努めている。しかし担当者に限らず、職員全員が日々の触れ合いの中で「気づき」の意見を出し合い、全体会議や都度ミーティング等にて話し合っています。 | ホーム内は終日入居者と職員の明るい話声に包まれており、職員は入浴時間や庭先での散歩中に1対1の時間を見つけては、思いを聞き取っている。入居者の思いをプランに繋ぐよう心掛けており、日頃のミーティングやケア会議の中で提案している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前調査での家族様や他事業所からの情報収集や、本人様との会話による把握を行い、生活環境づくりやサービスの提供に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様一人ひとりの1日の暮らしの流れにそって本人の状況を総合的に見つめる目を養いながら、日々の中でチームとして心身状態、有する力等の現状の把握に努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様の課題とケアのあり方について、家族様やかかりつけ医と話し合い、その結果をもとに現状に即した介護計画を作成しています。また、介護計画は毎日の状態観察と課題の把握の中で臨機応変に見直しています。 | 入居者を職員の担当制としており、日々の関りから聞かれた声をプランに反映するよう努めている。現在、2ユニットを22名の職員が対応しており、双方のユニットを行き来しながら、全ての入居者に関わることで多くの情報を収集している。人員配置に余裕があるからこそ、入居者の自立とともに、家族の負担軽減の意味からも、日中はなるべく布パンツや小まめのトイレ誘導にて、紙パンツなどの使用量を減らしたいと考え、ケアプランの中に盛り込んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日個別のケース記録に記入し、ミーティングや会議等にて変化や気づきに応じて職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに反映させています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様本人の訴えによる突然の医療機関受診や、本人・家族様の希望による外出等にもその時のニーズに応じて柔軟に対応しています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町の包括支援センターとの協働はもとより、民生委員やボランティア、町の病院、警察・消防、理美容院などの地域資源を把握し、これらの地域の人や場の力を借りた取り組みができています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様・家族様の要望を重視し、入所前からの馴染みのかかりつけ医による継続的な医療を受けられるよう、また、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療を受けられるように支援しています。 | 本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、受診はホーム対応や家族の場合は看護職員が必要に応じ同行するようにしている。また、専門医受診などの相談に応じながら、適切な医療支援ができるようにしている。口腔ケアも大切な支援の一つと捉え、訪問歯科や毎食後の歯磨き、義歯や痛みの確認、必要に応じて舌ブラシを使用している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 当園の看護師をはじめ、かかりつけ医療機関の看護師等に相談し、連携を取りながら利用者様の状態把握に努め、必要に応じて適切な受診や看護を受けられるように支援しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院については、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、かかりつけ医と連携し、家族様と相談しながら対応しています。病院関係者、地域医療連携室、ソーシャルワーカーと協力関係を築いています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態を見ながら、家族様と話し合いを行い、場合によっては当園の特養利用を促すなど連携を取りながら、ターミナルケアや医療等については、かかりつけ医とともにチームで支援しています。 | 重度化した場合の対応に係る指針や医師、医療機関との連携に関する資料などをもとに、ホームの取り組みを説明しながら、その時点での意向を確認している。また、母体特養の存在についても伝えている。入院などで部屋を空ける場合も、ホームに帰ってきたいと望む本人・家族の思いに応え、3カ月も待たれた事例もあるなど、チームワークで求められる支援にえている。管理者は普段の関わりが重要であり、今後もホームや職員にとっても悔いのない支援に努めていきたいとしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDを設置しており、救急救命の研修や勉強会に参加することで実践力を身に付けています。全ての職員は事故防止に向けて、常日頃より体動や状態変化に気を配り、初期対応に努めています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署と連携を取り、定期的な避難訓練を行っています。(火災・地震) 地域の方との合同非難訓練を実施したこともあり、協力体制を継続して築いていきます。 | 消防署と連携を図りながら年5回、火災・地震の避難訓練や不法侵入者を想定した研修会なども実施している。また、ホームの入り口にはAED設置を知らせた案内板やこれまで近隣者の参加を得た訓練を行うなど、救急や災害対策でも地域との協力関係の構築に努めている。日々の安全点検としては、台所やコンセントの埃のチェックなど掃除の際意識を持って行っている。 | 今後は多くの参加が得られている運営推進会議の中で、避難訓練を開催することも良いと思われる。その際は家族や近隣者にも呼び掛けることで、更に有意義な訓練になると思われ、検討いただきたい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入浴・排泄・更衣時などプライバシーを配慮しつつ、状態に合わせたケアやゆっくりとした口調で優しい言葉かけを行っています。 | 入居者の「安心と尊厳」をモットーに信頼を築き、自立支援を目指すことを掲げており、一人ひとりのこれまでの人生、今を大切にしながら支えている。方言を交えながらも、やさしさとメリハリのある声掛けは、周囲にも安心感を与えている。食が進まない入居者に職員が耳元で、その方の里の名産(山江栗のご飯)であることを伝えると、箸が動き出す光景に、個々にあった暮らしの支援の場面を見る事が出来た。プライバシーや守秘義務については、管理者の指導や会議の中でも周知徹底されており、広報誌配布でも、毎回1面に写真掲載や記事に家族の承諾を得ていることが記されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より利用者様の話に耳を傾け、「電気治療がしたい。家族と電話で話したい。仏さん参りをしたい。」等の希望や思いをすぐ聴けるよう心の変化にも気を配っています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 状態低下に配慮し、場合によっては歩行訓練等を促すこともあるが、希望を聴きながら個々のペースに合わせた支援をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分でできる方には、ブラシ等を用意して配慮したり、髪型や爪切り、行事の際には化粧をしてさしあげたり、本人や家族の希望があれば散髪や毛染め等の支援もしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬の野菜を当園の畑で職員と一緒に収穫してもらい、その野菜を使って一人ひとりの有する力に応じ、皮をむいたり、切ったり、できた料理のつぎ分けや、食後の食器洗いなどを手伝ってもらったりしています。 | 法人母体の献立を参考にしながら、収穫した野菜や近隣者からの差し入れ果物なども活用し、旬を活かした食事提供が行われている。入居者は普段から出来る事で調理に関わっているが、梅干しなどの保存食作りでも、実の収穫からシソもみ、浸かり具合の確認など昔とった杵柄を発揮できる場面が多く設けられていることもホームの特徴である。職員も同じものや持参した弁当などを見守りや介助を行いながら摂っており、食欲を引き出す声掛けが更に雰囲気や和らげていた。 | 現在食材購入は職員が中心に行っているが、今後は以前のように外出を兼ねて時には入居者も同行する機会を持たれることも良いと思われ、取り組みに期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その時々々の状態や症状に応じた食事の形態を工夫しています。塩分や水分、糖の制限のある利用者様についても個別に配慮しながら支援しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアにて残存機能を活かした支援をしています。口腔状態や歯の状態についても観察、舌ブラシを活用するなどのケアもしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、できるだけ自立に向けた支援をしています。昼間は布パンツを使用してもらう方もあり、パットのサイズも薄手の物を使用する等、不快にならないように、また活動しやすいように支援しています。 | 把握した排泄パターンを共有し、失敗や不快なく可能な限り自立した排泄が出来るように努めている。日中は布パンツで過ごされる方もあり、パットのサイズも状況に応じたものを検討している。排便においても日中活動(午前は戸外、午後はホーム内の歩行やレクレーションなど)や水分補給、野菜を多く取り入れた献立や発酵食の利用など、食の面にも力を入れていることが聞き取りからも確認された。トイレ内は換気や流し忘れのないよう小まめに確認し、いつでも気持ちよく利用できることで自立に繋がっている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜を取り入れたバランスの良い献立を考えたり、きな粉牛乳・ヨーグルト・食物繊維・発酵食品を取り入れ工夫したり、毎日の運動や水分補給など予防に努めています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 本人の状態に応じ予定を組み、利用者様の清潔保持に努めています。入浴時のこだわりや習慣等を見守り、洗身・洗髪の声かけを行いできる事をしていただき、入浴していることを感じてもらうように支援しています。 | 湯温の希望や洗い方など個々の入浴へのこだわりなどを把握し、夏場はシャワー浴も取り入れながら週2回以上の支援を行っている。ゆっくりとした入浴と洗身など出来る事はやってもらうことで残存機能の維持に取り組んでおり、入浴後は水分・保湿などに努めている。各ユニットでの入浴の他、以前開設していた同建物内にあるデイサービスの浴室を活用し、温泉気分を味わっている。 | デイサービスの浴室は広く、庭が眺められ開放感もあり、ホームでの入浴とは異なった楽しみが味わえるようである。今後は誘導方法や言葉かけ、楽しみを伝えるポスターの掲示など工夫することで、更にデイサービスでの入浴が心待ちなものになると思われる。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | まず寝衣に着替えをしていただき、快適に入眠できるようにしています。また、寝具の清潔保持、居室の環境、空調管理等も配慮しながら、安眠・休息できるように支援しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬の箱の中に個々の薬の内容や効能・副作用、用法や用量について説明書を保管しています。服薬事は多目の水で飲んでもらったり、日付・名前を確認し、完全に飲み込まれるまで確認しています。また服薬後は症状の変化を確認し、かかりつけ医に相談しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事が好きな方、歌が好きな方、ぬりえが好きな方、計算が好きな方、自然が好きな方など残存機能を活かした利用者様一人ひとりに合った役割・楽しみごとに気分転換等の支援をしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 帰省して仏さん参りや冠婚葬祭、散髪など家族様と外出してもらったり、普段は行けないような場所には、当園の園外活動にてバスハイクや少人数で外食に出かけられるような支援をしています。 | ホームでは「土でのケア」を大切にしており、敷地内の散歩や散策はもとより、収穫(タケノコ・梅・ジャガイモ・玉ねぎ・きゅうり・ニガウリ・トマト他)や畑の手入れを通して外気に触れる機会を持っている。また、バスハイク(神社参拝・花見・母体法人夏祭り参加など)の他、個別や少人数で移動販売によるパン購入や地域のファミリーレストランなどにも出かけている。帰省や散髪など家族の協力も得られている。外出時の写真はホーム内の掲示と二ヶ月毎に配布される広報誌でも紹介されている。 | 野菜や果実の収穫後は、調理や保存食作りなど更に入居者の楽しみを増す取り組みが行われている。今後も入居者が地域や家族の協力を得ながら、戸外に出る機会を継続して支援していきたい。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は預り金として事務所にて管理していますが、パンの出張販売時等には、職員と一緒に利用者様が好まれるものを買ったりできるように支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状や暑中見舞い等のお便りを書くことで家族との関係を深め継続する支援をしたり、電話は希望があれば、いつでもしていただけるように支援しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 壁面制作をしたり、季節の花を飾ったり、場合によってはTVを消して音楽を流したり、冷暖房の活用や換気等にも配慮しながら、居心地よく過ごせるような工夫をしています。 | 玄関先をはじめホーム内は、経年しても職員の日頃の掃除や工夫により草花や壁面を施しており季節を感じる事が出来る。また、外出やイベント時の写真はわかりやすく掲示され、入居者や来訪時の家族にとっても楽しみなものとなっている。年間を通して室温管理には外気を取り入れながらエアコンを使用しているが、人吉盆地という事もあり、蒸し暑さを感じる季節には特に配慮している。職員一人ひとりに応じた声掛けや生き生きと業務にあたる姿も居心地の良さに伝わっている。 | 玄関フロアーに設けられた談話室から眺める庭は古都を思わせるような庭石・玉砂利など職員の日頃の手入れを窺うことができる。家族との面会やホーム内での歩行訓練途中で何よりのひと休み場所として今後も活用されることを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った利用者様同士や逆のパターンのごとも配慮し、少しでも快適に過ごして頂けるように、テーブルやソファの居場所の配置、また状況に応じて変更するなど工夫をしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の環境は、入居前の住み慣れた部屋の環境に近いものとなるように、家族様と相談しながら、使い慣れたタンスや好みの飾りもの、位牌等を持ち込んでもらい、安心して居心地よく過ごせるような工夫をしています。 | クローゼットが備わった十分な広さの居室には、家族により、タンスや椅子、心の拠り所となるお位牌などが持ち込まれている。家族の中には新しいものを用意される傾向にあり、管理者は馴染みの品の必要性や入居後もホームと一緒に環境を整備してほしい事を申し添えている。職員は掃除や換気・温度設定をはじめ、布団干しや衣類の管理などにより居心地よく過ごせるよう努めている。 | お位牌を持ち込まれた方には朝からご仏飯を供えてもらうなど、これまで大切にされてきたことを引き続き支援している。これからも経験を積んだ職員から若い職員へ引き継いで、ホームならではの支援で居心地や安心に繋がる生活支援の継続に期待したい。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室入口には名前を表示し、ホールには時計やカレンダーを配置し、「できること」「わかること」を活かし、また障害物になるようなものを置かないなど安全にも配慮しています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 4373101015 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 洋香会 | | |
| 事業所名 | にしき園グループホーム(うめ棟) | | |
| 所在地 | 熊本県球磨郡錦町大字西70番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年8月7日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年9月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地の中に、「さくら棟」「うめ棟」と2ユニットで生活されています。年間の行事・活動の計画は2ユニット一緒に計画していますが、その時の状況で実施が別々になる事もあります。毎朝の散歩や活動などで、顔を逢わせられる事が度々ですが、笑顔で仲良く談笑され馴染関係も良く摂れています。特に畑で、野菜を収穫される時等良い光景が見られています。職員の配置はユニット別にしていますが、18名の利用者様は、ユニットの垣根は無く全職員を受け入れて頂き楽しく穏やかに生活をされています。毎日の食事に関しては、管理栄養士の献立に沿って、我が家で摂れた野菜と近隣から買い物した食材で毎食手作りの食事を提供しています。その中で利用者様が、野菜の下ごしらえや盛り付けなど手伝って頂きます。定期的を実施されている「虹色カフェ」は、敷地内にあり地域のボランティアと近隣住民・グループホームの希望者でコーヒーを飲みながら交流をされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 私たちは、地域ととともに歩み「自然を愛し・地域を愛し・人を愛す」を理念として福祉サービスの提供にまい進します、という事業所理念を管理者・職員がともに共有し、意識づけしながら実践しています。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 「運営推進会議」を始め、茶話会(名称:虹いろカフェ)や地域のサークル活動、近隣高校生のインターンシップを受け入れたり、夏まつり等の行事に近隣保育園生など地域の人たちを招き交流を図っています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 「運営推進会議」に、利用者様とご家族様を含め、地区委員・民生委員、町の消防団長、町役場の健康保険課長、包括支援センターの職員の方々に出席してもらい、利用者様の生活状況とその理解や支援方法等について発信しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議については、出席していただいている方より、「昼と夜で色々工夫したサービスをされていて大変さがよくわかります。いつもありがとうございます。」といったお言葉を頂いておりサービス向上に活かされていると思います。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町役場より、毎月介護相談員が訪問され、直接利用者様と話をしてもらったり、それぞれのケアサービスについて積極的に相談に乗ってもらうなど、協力関係を築いています。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | リスクマネジメント委員会による勉強会を開催し、「禁止の対象となる具体的な行為」について職員全員が正しく理解しました。グループホームにありがちな「スピーチロック」についても、管理者より厳重な注意があり、認識を改め取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 当グループホームではプライバシー保護のため監視カメラは設置しておらず、厳密な検証は出来ませんが、入浴介助時や着脱介助時などに利用者様の身体に、打撲痕や血腫、傷があった場合は、介護士から管理者へ必ず報告し原因を追究しています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を活用している利用者様が現在お一人おられますが、管理者や一部職員のみしか知らず、日常生活自立支援事業のことも含め、その内容や制度について学び、必要と考えられる利用者様がそれらを活用できるように支援していきます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結や解約の際は、原則管理者とケアプラン担当者が利用者様や家族様に要望等を伺いながら、解り易く時間をかけて十分な説明を行い理解・納得を得ています。また料金改定等には、その都度説明の上、同意書などを受け入れています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の都度面会時やサービス担当者会議、外部調査機構によるサービス内容確認アンケート実施・運営推進会議などの機会を設け、ご家族の意見・要望をお聞きしながら、それらにお応えできるような運営に努めています。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月管理者を含めた職員会議を開催し、また、毎朝・毎夕のミーティング時にその都度、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、職員の声に耳を傾け、出来得る限り運営に反映させています。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 半期毎の人事考課に於いて、職員各自の自己実現項目について公平に評価・助言し、次期目標に繋がりが持てるようにしています。日頃より、職員の声に耳を傾け、意見交換が出来るような職場環境づくりに努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各自の知識・経験・スキルの度合いに応じた事業所内外の研修参加を促すとともに、各種資格取得も奨励し、学びの機会を事業所として計画的に確保できるよう努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会にて同業者との交流の場を持ち、定期的な研修や勉強会を開催しながら意見交換を行い、お互いのサービスの質の向上に努めています。また敷地内の交流センターを会議等の場として提供するなどの取り組みをしています。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する初期の段階で、本人・家族様から十分な聞き取りを行いアセスメントを実施しています。それを基にしっかりしたケアプランを作成し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約締結時に家族様の要望を出来るだけ受け止め、相談しながら安心して頂けるようなサービスを提供しています。面会時やサービス担当者会議等においても、家族様の要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時の本人様の実情や身体機能状態等をもとに、その時点で何が必要かを管理者・ケアプラン担当者が見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 信頼関係を作ることが大事だと思っている。その為には一緒に散歩・食事づくり・外食・買い物などを通して信頼関係を作りケアに活かしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | サービス担当者会議などで、利用者様・家族様と一緒にプラン検討を行い、利用者様・家族様の意見を反映したプラン作成を行っている。又面会時には自室でゆっくりとお話をして頂いているが、必ず職員や管理者は近況の様子を説明している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | バスハイクなどで馴染みの場所へ計画や虹色カフェなどで近隣の方との出会い又以前利用されていた通所での交流等利用者様に尋ねながら計画をして支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様の性格や疾病を十分に把握して、レクリエーションや食事の席を決めている。又馴染関係なども考慮している。活動などは、複数人や個人等その方に合った活動の支援を行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後であっても、必要時は家族様と連絡を取り他施設への入所の相談を受けたり、利用者様の面会もお願いしている。又亡くなった時等、お参りをさせて頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当を決めている。担当は本人様の、希望や意向の情報を収集してケア検討会で検討している。決定した事項は、本人様の意向に沿う様に、全職員で支援している。困難な場合は、本人・家族・管理者・担当と一緒に話し合い出来るだけ希望に沿う様に努力している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日常生活の中での会話や活動を通して回想法を使い、懐かしい事・楽しかった事・辛かった事等思い起こして頂き、優しく傾聴することを心掛けている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常の業務日誌と並行してケア支援経過表を作成して状態観察を行い職員間の意識の統一を図っている。特にバイタル・排泄・睡眠などに関しては、看護師に状態報告をして対応している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様の課題とケアのあり方について、家族様やかかりつけ医と話し合い、その結果をもとに現状に即した介護計画を作成しています。また、介護計画は毎日の状態観察と課題の把握の中で臨機応変に見直しています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日個別のケース記録に記入し、ミーティングや会議等にて変化や気づきに応じて職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに反映させています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様本人の訴えによる突然の医療機関受診や、本人・家族様の希望による外出等にもその時のニーズに応じて柔軟に対応しています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町の包括支援センターとの協働はもとより、民生委員やボランティア、町の病院、警察・消防、理美容院などの地域資源を把握し、これらの地域の人や場の力を借りた取り組みが出来ています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様・家族様の要望を重視し、入所前からの馴染みのかかりつけ医による継続的な医療を受けられるよう、また、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療を受けられるように支援しています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 当園の看護師をはじめ、かかりつけ医療機関の看護師等に相談し、連携を取りながら利用者様の状態把握に努め、必要に応じて適切な受診や看護を受けられるように支援しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院については、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、かかりつけ医と連携し、家族様と相談しながら対応しています。病院関係者、地域医療連携室、ソーシャルワーカーと協力関係を築いています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態を見ながら、家族様と話し合いを行い、場合によっては当園の特養利用を促すなど連携を取りながら、ターミナルケアや医療等については、かかりつけ医とともにチームで支援しています。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDを設置しており、救急救命の研修や勉強会に参加することで実践力を身に付けています。全ての職員は事故防止に向けて、常日頃より体動や状態変化に気を配り、初期対応に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署と連携を取り、定期的な避難訓練を行っています。(火災・地震) 地域の方との合同非難訓練を実施したこともあり、協力体制を継続して築いていきます。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全職員が、利用者様のADLを十分把握して、特に排泄・入浴時はプライバシーを重視してケアプランに沿った尊厳あるケアをしている。又居室の出入りなどに於いても本人様の許可をいただいて入室するようにしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 介助に入る際は必ず声掛けを行い、本人様の意思表示を促し支援をしている。意思表示が困難な場合は、選択しやすいような声掛けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務を優先することなく、利用者様の生活の流れに沿って、ゆっくりとその人に合った活動の支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人様や家族様の希望を聴き散髪・髪染め・パーマなど外部から業者を受け入れ支援している。又衣類に関しても同じものを繰り返し着衣される事が無い様に本人様に似合った衣類を調整している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 菜園活動の支援も行っているため、当園の畑で収穫した野菜を下ごしらえしたり、盛り付け・味付けの意見を聴きながら、食事づくりの楽しみを味わって頂いている。又食事中は静かな音楽を流し落ち着いた雰囲気の中で食事を摂られている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士が作成した献立表を基に、当園の畑で獲れた野菜を取り入れ栄養の偏りが無い様に提供している。食事量・水分量は職員で把握し、偏っている時は、看護師に報告し指示を仰いでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケア時には自力の方も、声掛けを行い介助の方はもちろん歯ブラシや舌ブラシなどを使い支援している。ガーゼでの口腔内清拭や義歯消毒なども行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて排泄パターンを確認しその方に合った声掛けの時間の調整を行っている。自立の方に関しては、チェック表の記入は行っている。又24時起床シートを使って排泄パターンをチェックし尿失禁の改善も見られている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防対策として、朝の園庭の散歩・水分の確保・野菜の取り込んだ献立の工夫・きな粉を混ぜた牛乳・等取り組んでいる。緩下剤に関してはドクターの処方に合わせて最低の量で投薬している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は、3日目に入浴の提供をしている。しかし清潔保持の為にこの限りとせずその都度入浴の提供をしている。又隔月に一回位希望者のみ大浴場で「温泉レク」を楽しんで頂いている。夏場は一日越しにシャワー浴を提供している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その方に合ったベッドの高さを調整し、パジャマに着替えて頂き、馴染のある布団で休んで頂いている。空調管理を調整し、安心して気持ちよく休んで頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬の箱の中に個々の薬の内容や効能・副作用、用法や用量について説明書を保管しています。服薬事は多目の水で飲んでもらったり、日付・名前を確認し、完全に飲み込まれるまで確認しています。また服薬後は症状の変化を確認し、かかりつけ医に相談しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 活動を、合同のレクと趣味を生かした活動とした支援をしている。菜園の趣味・裁縫・料理・計算式ぬり絵・工作等利用者の趣味に合わせて支援している。男性で洗濯たたみが、上手な方も居られます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年間計画としてバスハイクを計画している。又希望によって外食や買い物をしている。時には地域から声掛けられて地域の花祭りなどに出かけられる事もある。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的に金品は事務所で保管している。外出時にお小遣いとして持っていかれたり、パンの移動販売にて自分で買われたり、虹色カフェにてコーヒー代として支払われたりしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族様からの電話で話されたり季節のお便りを職員と一緒に書き家族様や友人に出されている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の場所は、居心地よく過ごせるように季節の花や壁画で飾りテレビやCDプレイヤーなどで雰囲気づくりをしている。浴室やトイレはプライバシーを厳守し、安全や清潔に努め、ゆっくり使用していただくように支援している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールに設置しているソファに気が合った方同士で腰掛けられたり、食事のテーブルでは、活動の内容で、自分で場所を選んで腰かけられることもある。またバルコニーに出られて過ごされることもある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の時、馴染みの持ち物をお願いしています。布団・タンス・座椅子・お位牌など持ってこられている。布団は定期的に干し、タンスはご自分で選んで頂ける様に種別に整理しています。お位牌も職員と一緒にお参りされています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自室の入り口には名前をを掲示し、共有空間には避難誘導の掲示板、トイレ・浴室の掲示などを示している。 | | |